



ユニバーサル仮設 住宅提案書

日本財団助成事業 DPI 日本会議

災害時の仮設住宅は段差等を解消しユニバーサルデザイン化したものを標準化する。さらに大きな車椅子や介助が必要な人に対応したバリアフリー仮設住宅も作る。この2つを様々な大きさに配置し、ユニットとして整備する。

2017 年 5 月 31 日

ユニバーサル仮設住宅の提案書

I. 基本理念

1. 障害者権利条約を踏まえ「他の者との平等」を基礎とする

- ・ 日本が 2014 年に批准した障害者権利条約は、基本的な理念として「他の者（障害のない者）との平等を基礎」としている。その理念を踏まえ、障害のある者もないものと等しく利用しやすい仮設設計、地域づくりとする。

2. ユニバーサルデザイン化を標準化する

- ・ 一般の仮設住宅も段差を解消し、ドア幅を広げるなどユニバーサルデザインを標準化する。
 - ・ 高齢者等にも利用しやすく、小型の手動車いす程度であれば利用できるようになる。
- #### 3. インクルーシブな仮設住宅
- ・ 権利条約では障害のある人もない人も場を分けないインクルーシブな社会を求めている。これを踏まえて、障害者だけの仮設住宅エリア、健常者だけの仮設住宅エリアというように場を分けることなく、同じエリアにだれもが住む仮設住宅とする。

II. 仮設住宅の現状

1995 年に発生した阪神淡路大震災、2007 年の新潟県中越沖地震、2011 年の東日本大震災、2016 年の熊本地震、そして近年では大雨による洪水なども多発し、私たちはどこにいても被災者になる可能性に直面している。甚大な被害は多くの死者を生む中、被災者は「住宅」を失うだけでなく、それまで営んできた「生活」をも失い、障害を持つ人は避難所にも行けず過酷な生活を強いられている。

こうした大震災により、仮設住宅は「単に一時的に住む」場所から「これから先に続く復興のための仮設住宅」として変化してきている。例えば、熊本大震災後の仮設住宅では、小学校区程度の地域でのブロック割を行い、ブロックごとの集会場を設置するなどにより、それまで培ってきたコミュニティを維持し、避難生活者の新たなコミュニティを生んでいる。生活必需品販売所の設置だけでなく、看護師による見守りなど、住宅の提供だけでなく生活を行う場を生み出している。

高齢社会に伴い、避難地域の 1/3 は高齢者というような地区もあるように、仮設住宅のバリアフリー化も新たな課題の時期に入っているのではないだろうか。熊本では一般仮設住宅の一部において、入り口にスロープをつけ、玄関や部屋の段差をなくしたバリアフリー化した部屋を作るなど、バリアフリー化を試みているものの、当初から計画されたものでないため、その試みは残念ながら中途半端な状況である。トイレの扉の幅が狭く車いすで便座まで行くことが出来ない、浴室の扉幅も狭く介助を必要とする人は浴室にすら入れない。居室と同じ高さに置かれただけのユニットバスでは浴槽の入り口に段差ができ、車いす利用者が使えない。

2017 年 11 月にバリアフリー住宅として作られた熊本の福富団地では、特に車いすを使用している障害者に大きく配慮した仮設住宅となっている。向かい合わせに作られた玄関は、設置されたスロープによって、すべての各戸に車いすで行くことが出来る。玄関の幅が広く、部屋の中に狭い廊下がないため、室内でも車いすで回転できるスペースをとることができる。トイレ洗面室や浴室の扉幅も余裕があるため、車いすで近づける等、介助する人のスペースも確保できるなど、車いす使用者が十分避難生活を送られる住宅となっている。ただし、ここで問題になっていることもある。

- ・ 一般の仮設住宅が設置された後の最後の設置、つまり震災後半年以上経ってからの設置であったため、バリアフリーの仮設住宅を必要としている障害者は、それまでの間 仮設住宅に入れなかった。
- ・ バリアフリーの仮設住宅が一般の仮設住宅の地域から離れ、6 戸のみが孤立して設置されているため、地域のコミュニティが形成できない。そのため、一般の仮設住宅に入居した重度障害者の中には、引っ越さずに浴室などが使えない一般仮設に住み続ける 例もある。6 戸中 2 戸が車いす使用者、2 戸は視覚障害者、2 戸は半年経った現在も空き状態である。

これらの問題は、一般の仮設住宅において少しの工夫で解決される問題でもある。すべての人が利用できるユニバーサルデザインの仮設住宅の導入が求められている。

Ⅲ. 提案の概要

1. 全ての仮設住宅をユニバーサルデザイン化する（標準化） **図面 1・3**
 - ・ 一般の仮設住宅は、室内・浴室の段差を解消し、ドア幅を広げ、ユニバーサルデザインを標準化する。
 - ・ 高齢者にも使いやすくなり、小型の手動車いす程度であれば利用できるようになる。
2. バリアフリー仮設住宅を設ける **図面 2・4・5・6**
 - ・ 大型の電動車いす利用者、介助者が必要な障害者、家族と同居している障害者等一般の仮設住宅よりもスペースが必要な人向けにバリアフリー仮設住宅を設ける。
 - ・ 入り口にスロープを設置し、ドア幅を広げ、室内の段差を解消し、大型の車いすでも転

回できる広さを備えた浴室等を設ける。

- ・ ファミリータイプの仮設住宅はこれを標準とする。

3. 複数パターンでユニットを組み設置する **図面 7・8**

- ・ 一般の仮設住宅（間取りの異なる複数パターン）とバリアフリー仮設住宅を併設しユニットを組む。仮設住宅を建設するエリアに、必ずこのユニットを複数設置する。
- ・ 左右対称の違う住宅を設ける（トランスファーなどどちら側が使いやすいか選べるようにする）。

IV. 具体的な仕様

1. 敷地内

（1） 通路は舗装

- ・ 敷地内の通路は車いすでも移動しやすいように舗装する
- （2） その他のところは砂利地盤安定材を設置
- ・ 通路以外のところでも立ち入る可能性のあるところは、砂利安定材等を使って、車いすで移動可能とする。

2. 玄関までのアプローチ

（1） スロープの設置

- ・ 玄関にはスロープを設置する。
- ・ 複数世帯を1ユニットとし、向かい合った玄関の前の通路全体を床上げし、スロープでアプローチできるようにする。

参考：熊本県益城町福富団地のバリアフリー仮設住宅



（2） 勾配と幅

- ・ スロープの勾配は 1/20 以下とし、幅は 1,200mm 以上、踊り場は奥行き 1,500mm 以上とする。

3. 室内

(1) 一般仮設住宅 図 1・3

① 玄関

- ・ ドア幅は有効幅員 800mm 以上とする。

② 通路

- ・ 車いすでも移動しやすい広さを確保するために出来る限り廊下は設けない。

③ 洗面台

- ・ 下端が 680mm 以上、上端が 720mm 以上 図 10

④ 浴室

- ・ ドアの幅は有効幅員 670mm 以上とし、段差を解消しフラットとする。
- ・ 扉は可能な限り引き戸とする。
- ・ 車いすの通行の妨げになる棚などは極力可動式とする。
- ・ 浴室部分（約 1 坪）の床を低く設置し、段差を解消する。図面 9
予め設定しておくことによってコストの増加につながらない。
- ・ アダプタブルな設備を設置可能とする。例えば、バスタブを取り外し、ロールインシャワーを設置する、手すりをつけるなど。

(2) バリアフリー仮設住宅 図面 2・4・5・6

① 玄関

- ・ ドア幅は有効幅員 800mm 以上とする。
- ・ 段差を解消する。
- ・ 引き戸を標準とする。
- ・ ドアの横に袖壁(300mm 以上)を設ける。

② 通路

- ・ 車いすが移動しやすい広さを確保するために出来る限り廊下は設けない。

③ 洗面台

- ・ 下端が 680mm 以上、上端が 720mm 以上 図面 10

④ 浴室

- ・ ドア幅は有効幅員 800mm 以上とし、段差を解消する。
- ・ 浴室部分（約 1 坪）の床を低く設置し、段差を解消する。図面 9
予め設定しておくことによってコストの増加につながらない。
- ・ アダプタブルな設備を設置可能とする。例えば、バスタブを取り外し、ロールインシャワーを設置する、手すりをつけるなど。

※ 3 (4) と同じ。

⑤ ドア

- ・ 引き戸を基本とする

⑥ スイッチ、ドアの取手、便座の高さ、配電盤等

- ・ 別紙図面の寸法を参考にする。図面 10

4. 集会所

(1) 入り口の段差解消

- ・ スロープを設置するなど入り口の段差を解消する。

(2) 室内

- ・ 段差を解消する。
- ・ テーブルや椅子は可動式とする。

(3) トイレ

- ① 多機能トイレを設置する。
- ② 大規模なトイレの場合は、男女それぞれに簡易多機能トイレを設置する。

5. 店舗

- ・ 仮設住宅エリアに店舗を設ける場合は、バリアフリーにする。
- ・ 飲食店の場合は、可動式のテーブル・椅子とする。

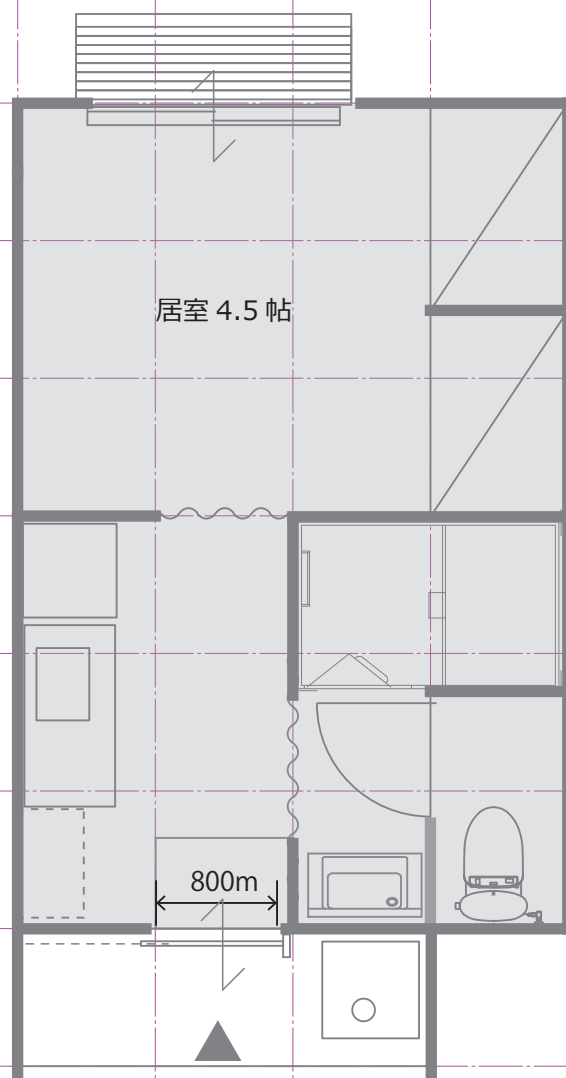
6. 駐車場

- ・ 車いす駐車スペースを確保する。
- ・ 車いす駐車スペースは、車いすで移動し易いように舗装するか、砂利安定材を設置する。

7. バス

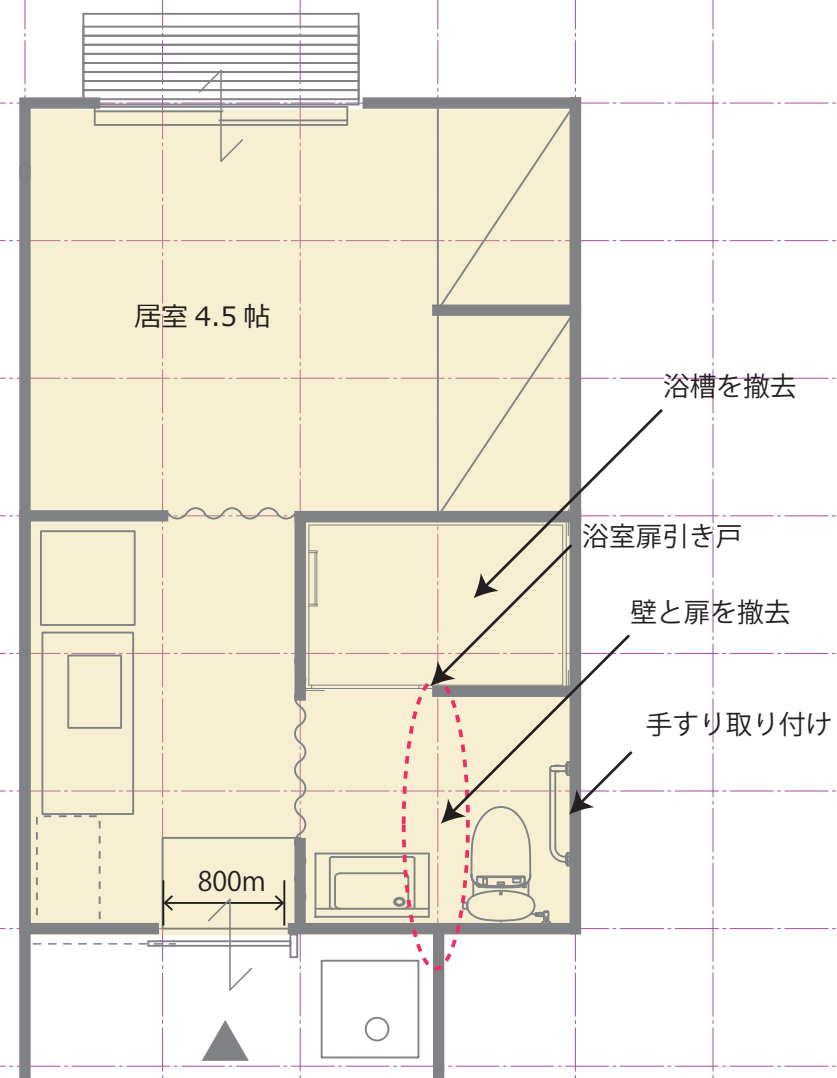
- ・ ノンステップバスを運行させる。
- ・ スクールバスもノンステップバスとする

図 1 : 6 坪ユニバーサルデザインタイプ



3,640m

図 2 : 6 坪ユニバーサルデザインタイプ
バリアフリー化



3,640m

図 3 : 9 坪ユニバーサルデザインタイプ

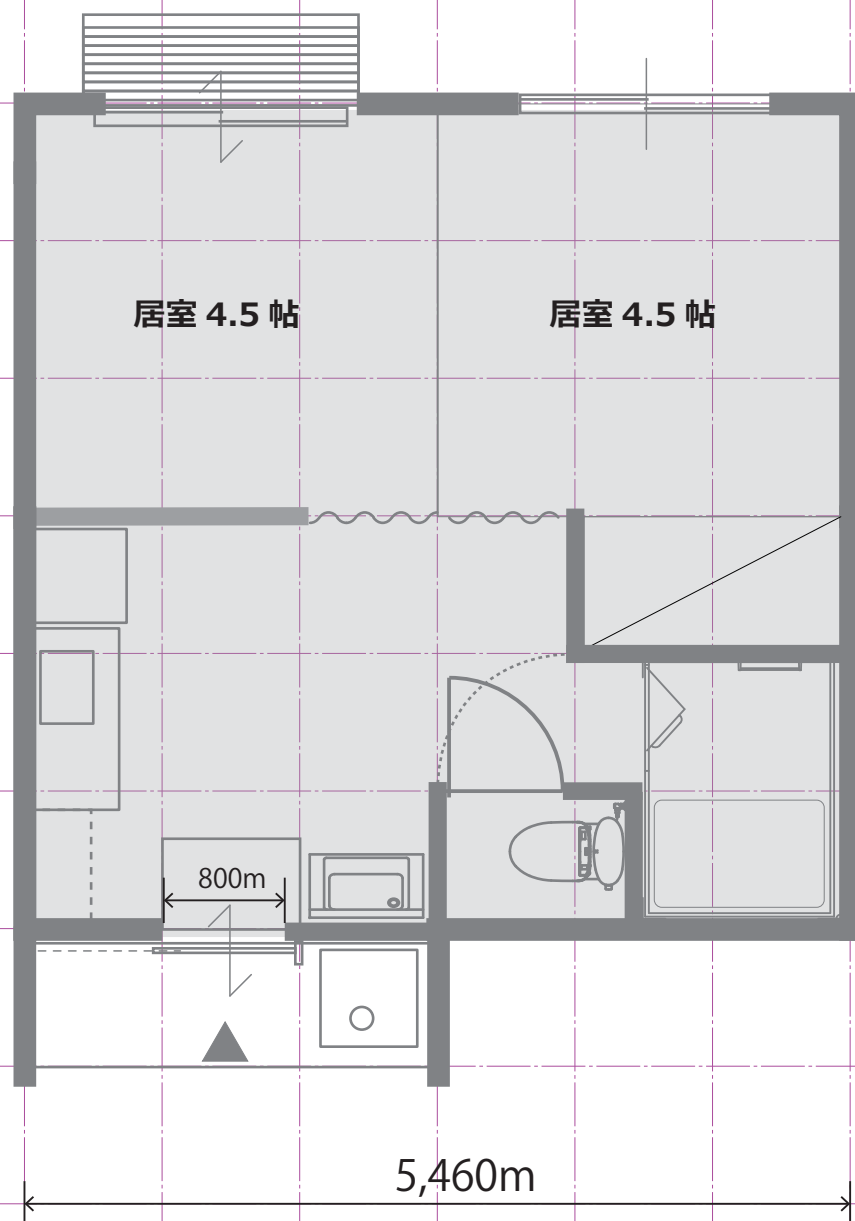


図 4 : 9 坪ユニバーサルデザインタイプ
バリアフリー化

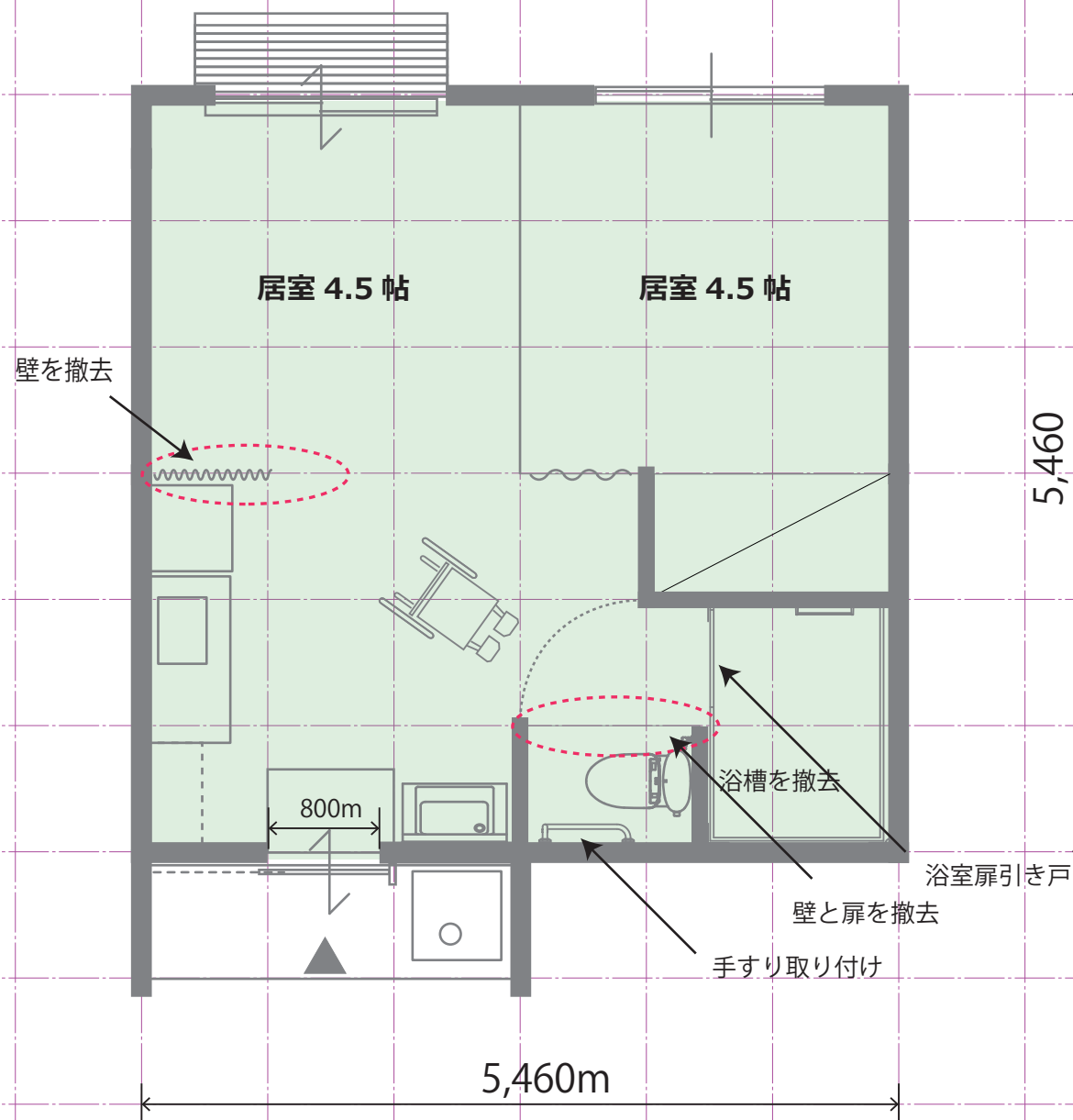


図 5 : 10.5 坪バリアフリータイプ

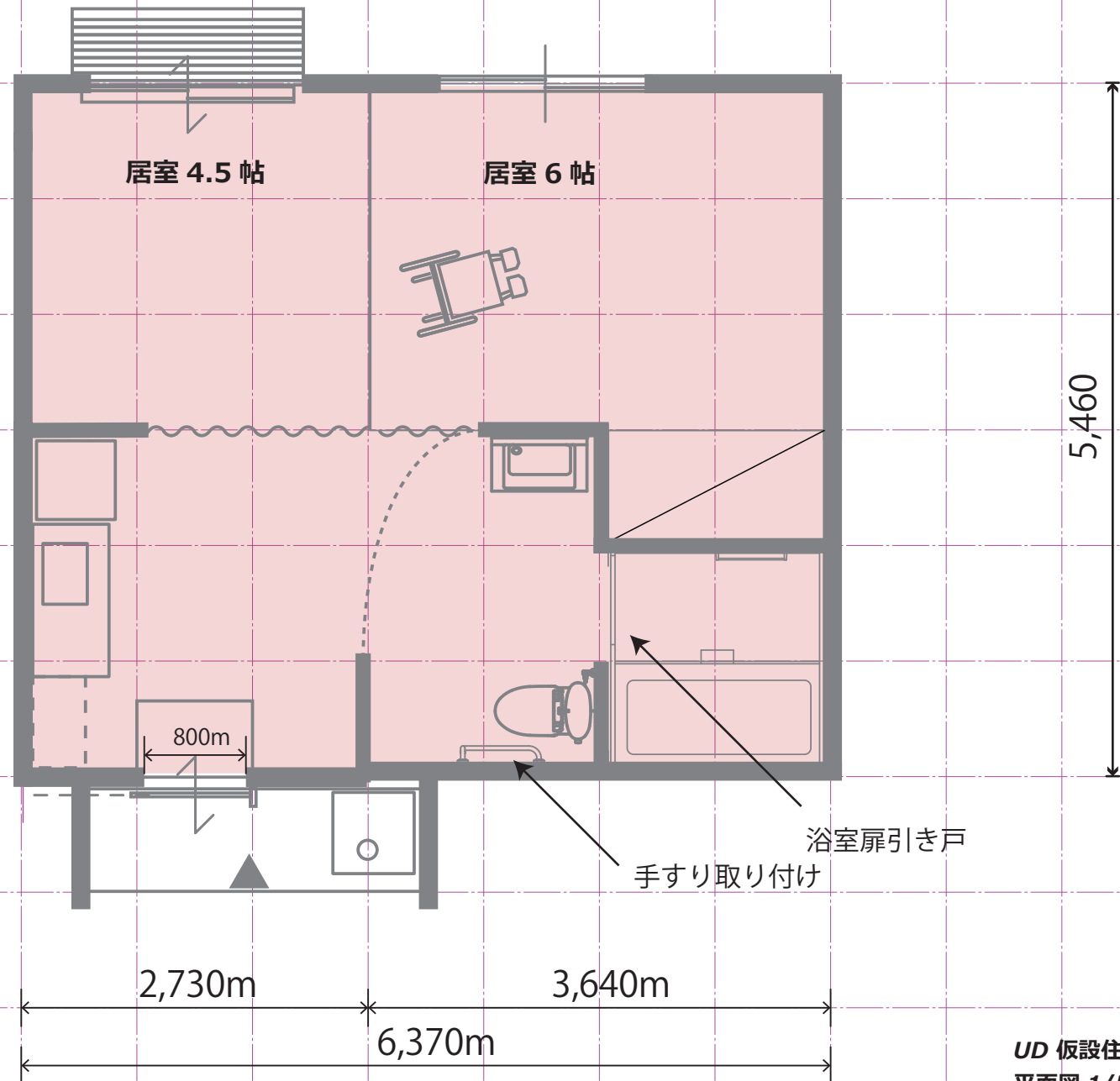
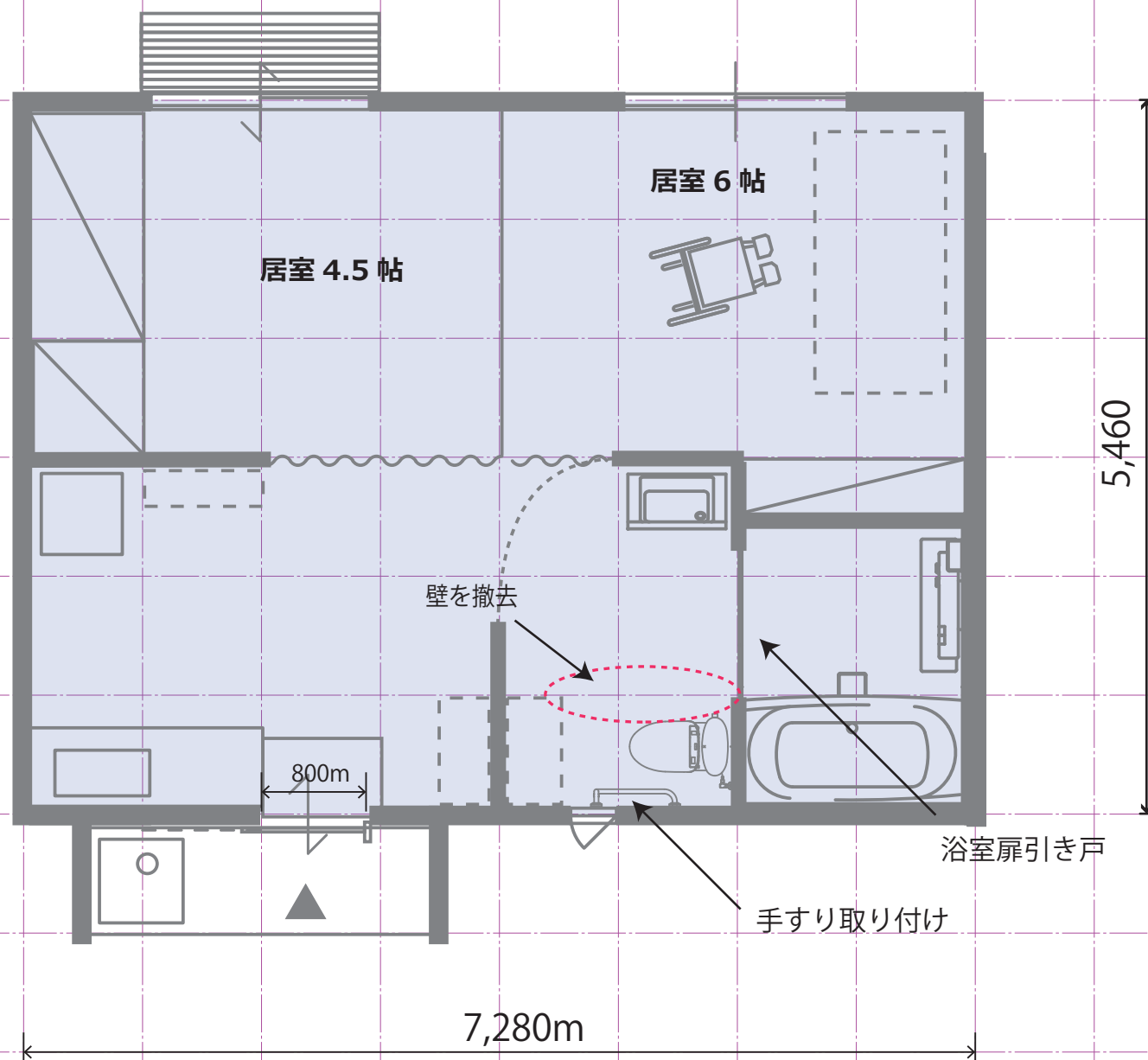


図 6 : 12 坪バリアフリータイプ



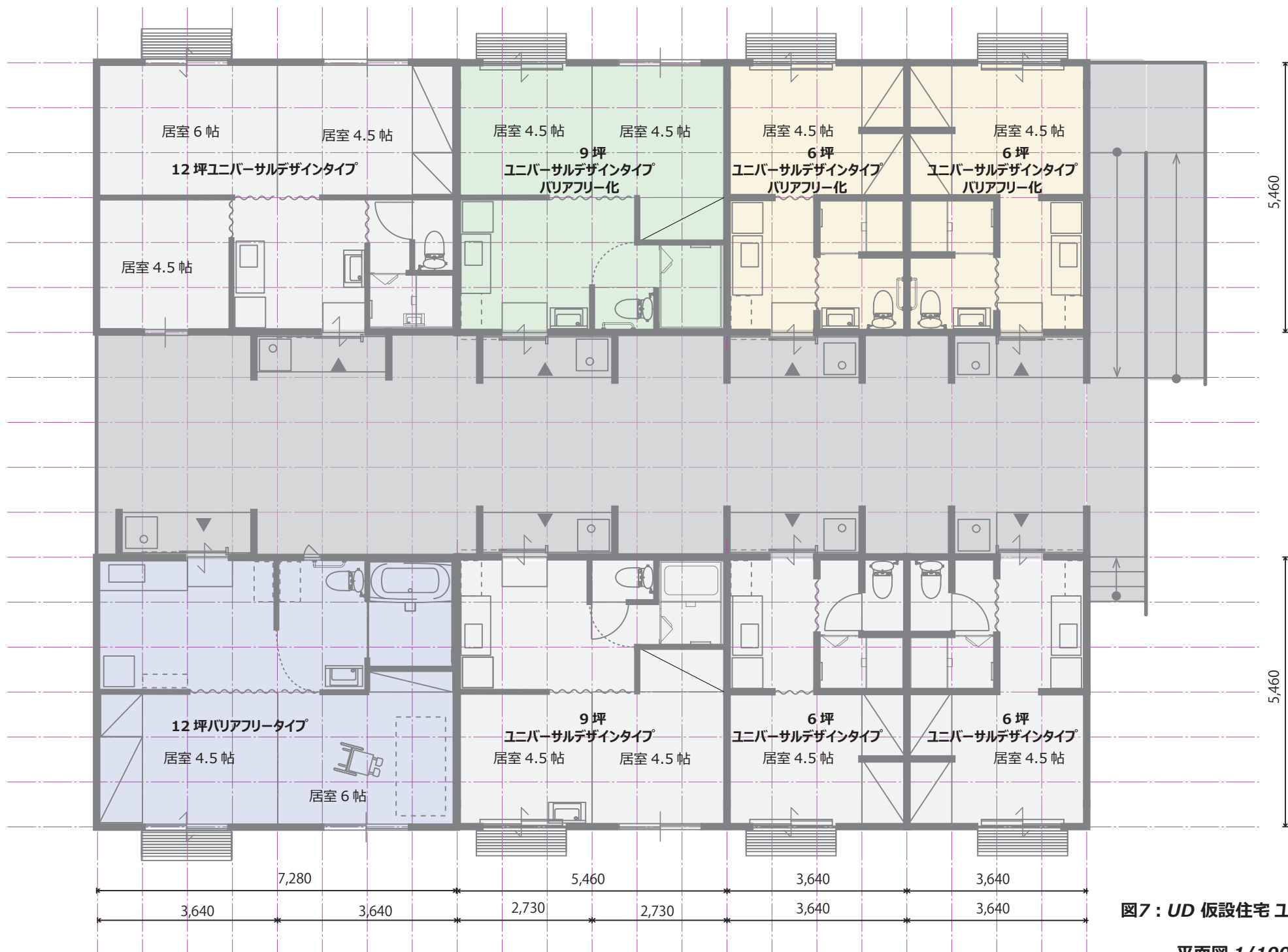


図7：UD 仮設住宅ユニット01

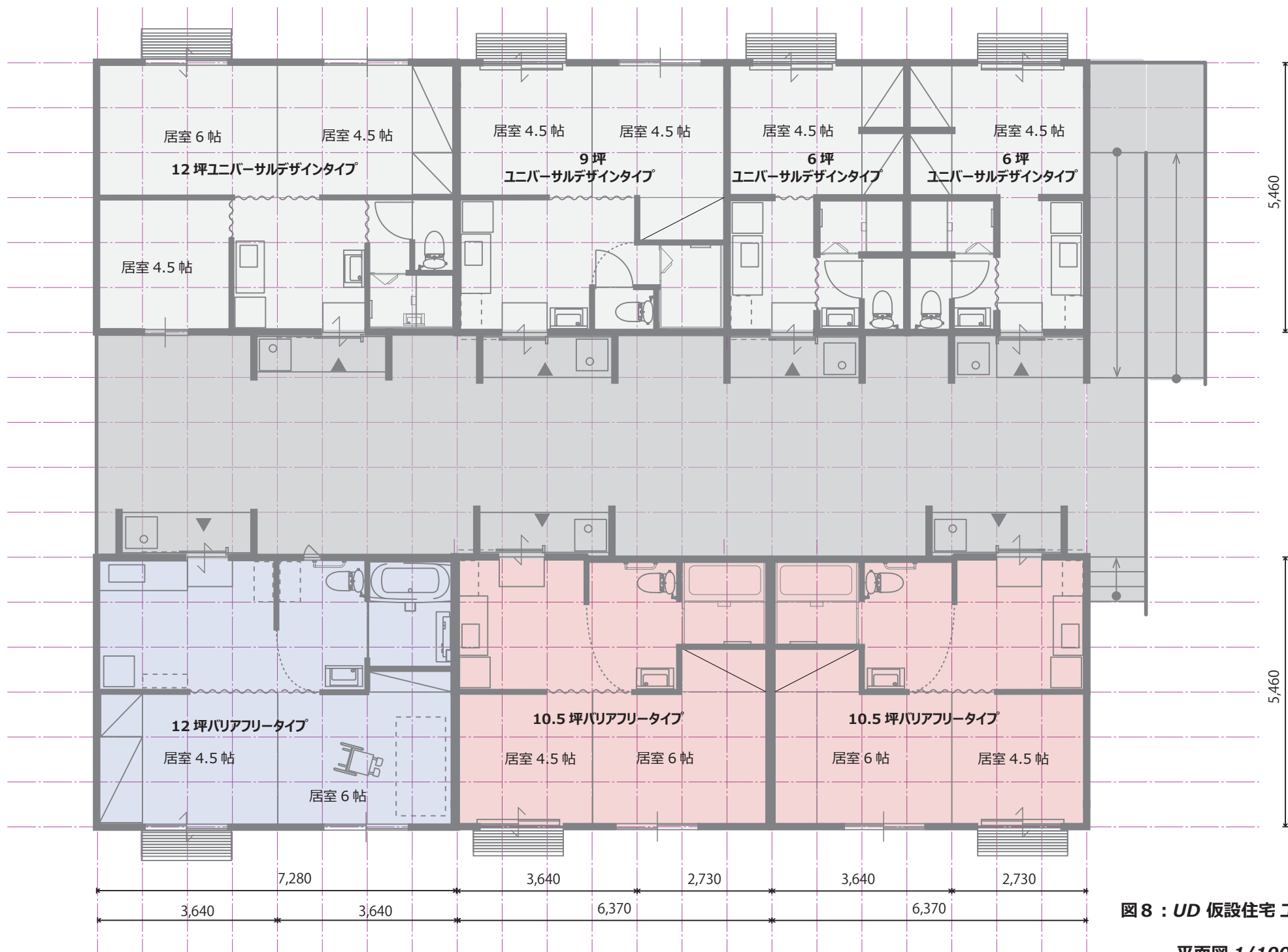
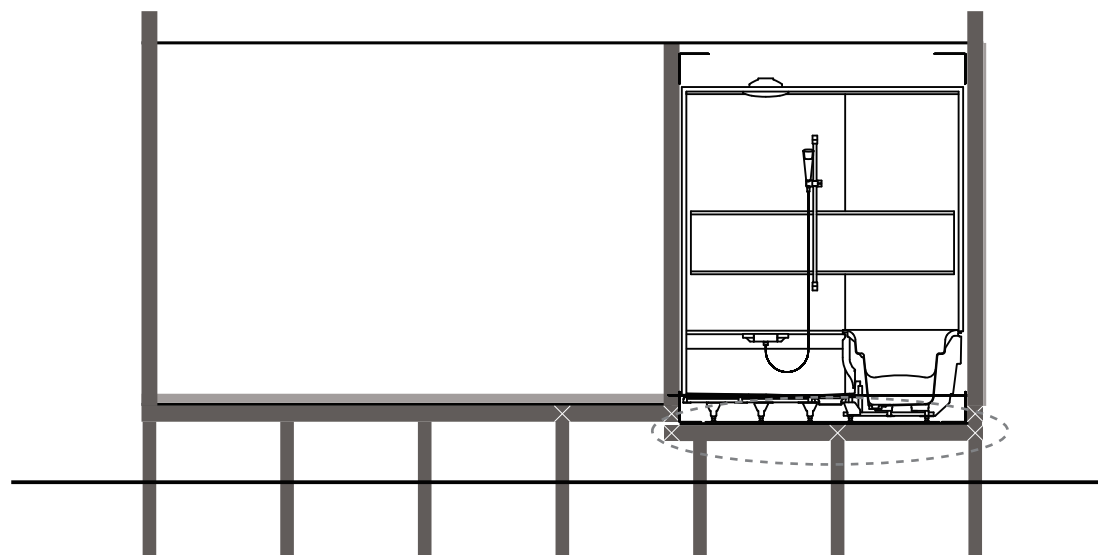
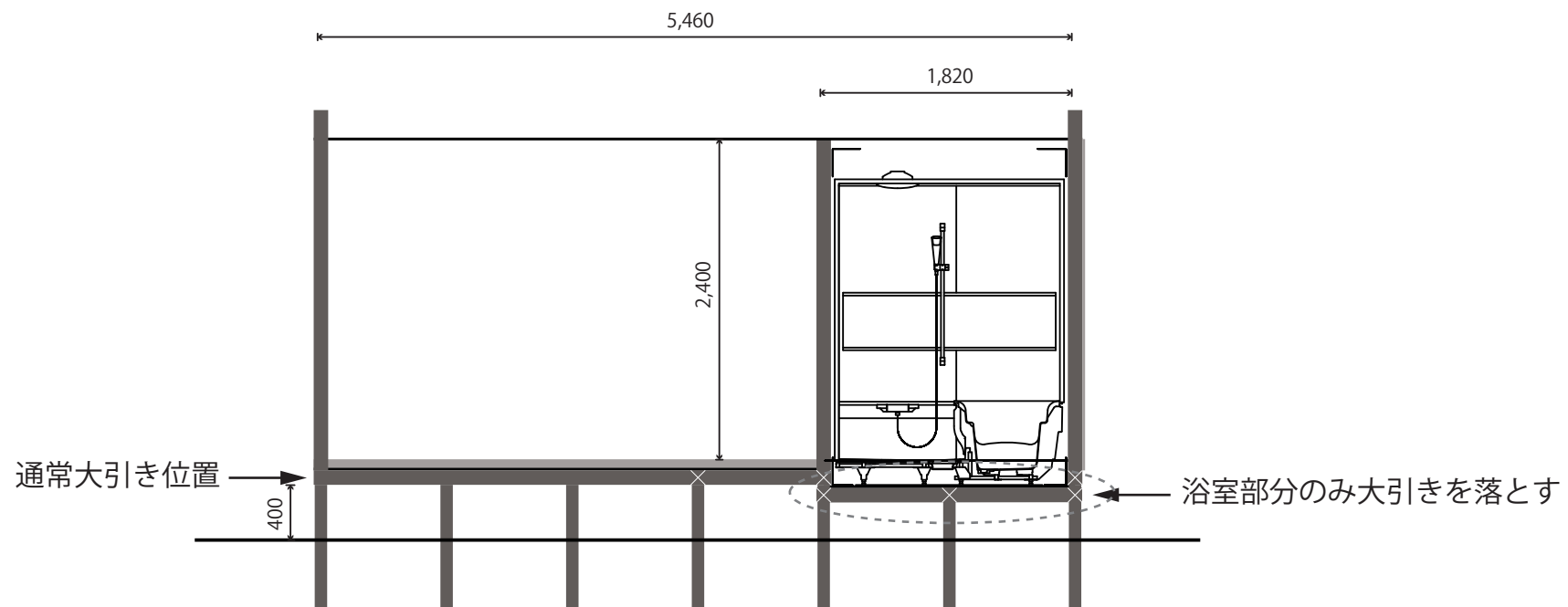
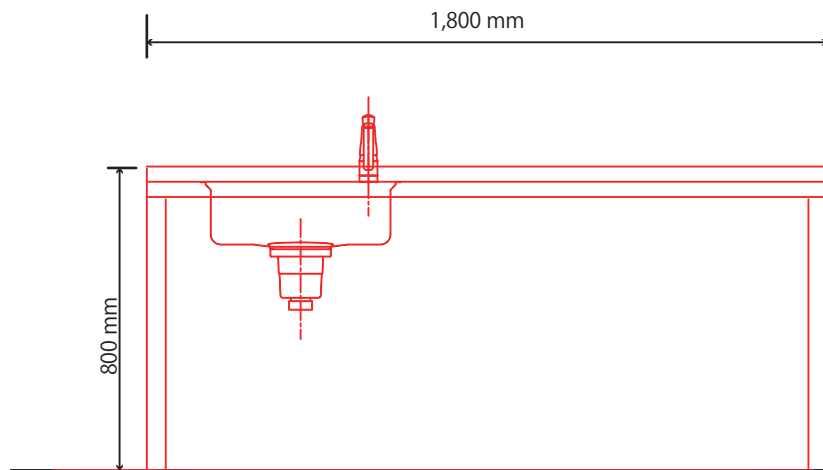
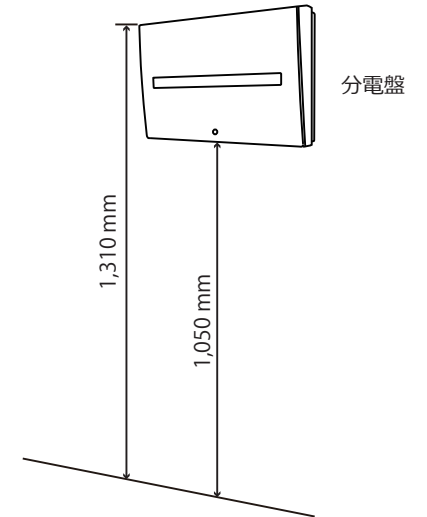
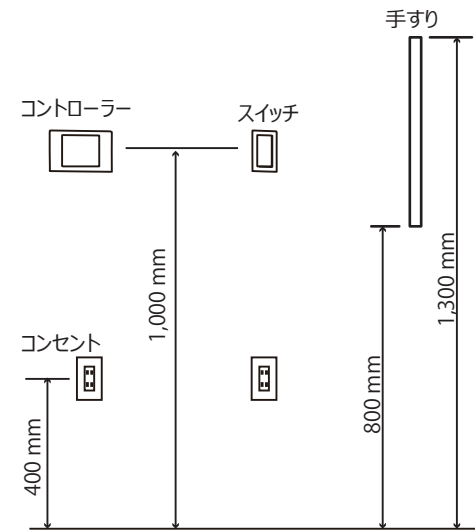
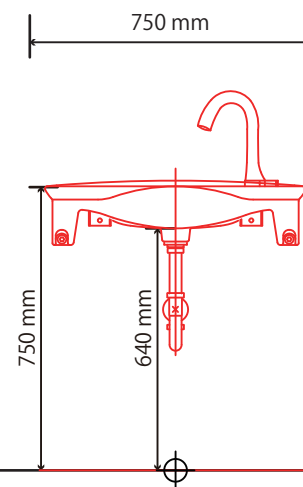


図 8 : UD 仮設住宅 ユニット 02





キッチンカウンター



洗面台

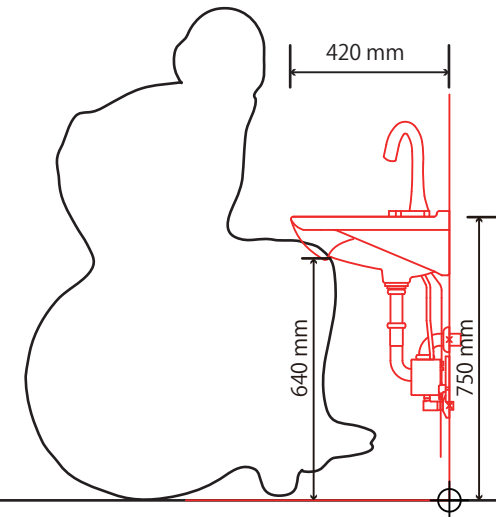


図 10: 各高さ